



高崎だるま職人による

伝統だるまと創作だるま展



平成26年10月3日(金)～8日(水)

午前10時～午後6時(入場無料)

高崎シティギャラリー2F 第3展示室

〒370-0829 群馬県高崎市高松町35-1
TEL 027(328)5050

主催 群馬県達磨製造協同組合 主管 だるまの町づくりプロジェクトチーム
後援 高崎市 高崎市教育委員会 高崎観光協会 上毛新聞社



群馬県達磨製造協同組合員

秋本整型 アクティ大門屋 飯野だるま工芸 飯野光利 池川だるま店 今井だるま本舗 今井だるま店 大塚佐平 岡田ダルマ店 荻原サチ
開運福だるま中喜屋 鹿毛だるま 観音だるま 木村だるま店 国峰べっこう屋商店 群馬だるま製造販売 小池ダルマ店 木暮武夫 小暮ダルマ
桜井一郎 佐藤守 茂田ダルマ(株)茂田商会 清水ダルマ店 須田ダルマ店 須藤だるま店 高崎だるま職人三代目真下輝永商店 高林だるま
竹内ダルマ店 (有)だるまの幸喜 だるまのふるさと大門屋-大門屋物産(株) だるま工房松島物産 戸塚ダルマ店 外谷だるま店 とみざわ物産 (株)ナカダ
萩原だるま店 福澤だるま成型 深谷商店 福だるま丸順 堀江だるま店 堀口商会 松本商店だるま工房 松本ダルマ店 松本ダルマ商会 南正弘
峯岸商会 だるま工房やなせ ユアサ工芸 ㊦ 深谷 吉田ダルマ店



高崎だるまのキャラクター
「たかれくん」

高崎だるま職人による

伝統だるまと創作だるま展

だるま展開催にあたって

高崎だるまは、寛政年間（七八九年）一八〇一年に山縣友五郎により生み出されました。今や高崎のみならず群馬県のシンボルであり日本を代表する「だるま」として、全国のだるまを牽引する存在となっています。

山縣友五郎が、生まれ育った豊岡村、八幡村には、彼が生み出した技法が伝わり、他に類のないだるまの産地が生まれ、数多くの職人が育ってきました。

現在、だるまの型を作る職人、高崎だるまを作る職人を合わせて七十二人が群馬県達磨製造協同組合に登録されています。

高崎だるまが生まれてから二百数十年を数え、あらためて郷土の偉人であり、職人山縣友五郎を見つめ直し、だるまのふるさとを全国に発信していきたいと考えています。

私たちはそうした観点から、昨年、だるまの町づくりプロジェクトを発足し、あらためて、郷土の誇りと向き合う取り組みを始めてまいりました。今回のだるま展は、沢山の皆様にお越しいただき、だるまの培われてきた経緯や歴史、全国で唯一お顔に描かれた髭に鶴・亀の意味を持つ高崎だるまの特徴や職人一人ひとりの髭の違い、更に創作だるまに込めた職人の取り組みの数々を是非ともご覧いただきたいと考え、初めての企画として開催するものです。



「高崎だるま」とは

（七転び八起き開運・福だるまの二百数十年）

山縣友五郎がだるまを作り始めた寛政年間から今日まで、高崎だるまに込められた特徴は変わることなく受け継がれてきました。眉毛は「鶴」、髭は「亀」、の縁起の良い二つをお顔に表現した高崎だるまは、別名「縁起だるま」「福だるま」「祈願だるま」とも呼ばれ、描かれた髭に意味を持つて親しまれてきました。

上州（群馬県）は、昔から、養蚕が盛んな地域で、蚕は繭を作るまでに四回脱皮しますが、蚕が古い殻を割って出てくることを「起きる」と言います。その言葉にかけて、養蚕農家では七転び八起きのだるまを大切な守り神として奉り続けてきたのです。養蚕の大当たりの願かけから、やがて一般家庭へと広まり、さまざまな願かけが行われるようになりました。

だるまの両肩に家内安全や商売繁盛、お腹に福入などの文字を入れて願いを込めて奉ってきました。

また、上州は昔から、だるま作りにとっても適した土地と言われてきました。紙を木型に張る、色を塗る…そんな一つひとつの行程の中で、上州名物からつ風と乾いた空気が、大きな後押しとなっていました。

まさに、高崎だるまは、職人の伝統の技と上州の気候風土が生み出した「故郷」そのものと言えるでしょう。



平成26年10月3日（金）～8日（水）
午前10時～午後6時（入場無料）

高崎シティギャラリー2F 第3展示室

主催 群馬県達磨製造協同組合 主管 だるまの町づくりプロジェクトチーム
後援 高崎市 高崎市教育委員会 高崎観光協会 上毛新聞社

高崎だるまのもう一人の偉人

山縣友五郎によって生み出された「だるま」は、長い年月を経て様々な可能性を現代の職人たちにもたらしています。それが創作だるまです。しかし、それも伝統だるまの技術があつて初めて作り出せるものなのです。

私たちが二百数十年前から変わることなく受け継いできた山縣友五郎のだるまは、お顔の髭を鶴と亀、両肩に祈願文字、腹に福入の文字を入れて、高崎だるまの特徴となつて今日に至っています。

しかし、明治に入るまで「だるま」の木型は少なく山縣家に伝来するものでした。それが明治に入つて金沢藩士と伝わる草名鉄十郎盛幸が豊岡村に住み始め、だるまの木型を専門に彫り始めます。通称「鉄つあん」と言われた木型彫名人によつてだるま作りを志す者が増え、豊岡には「だるま」職人の芽が沢山育ち始めます。おそろく草名鉄十郎盛幸が豊岡村に定住しなければ稀にみるだるまの産地は出来上がらなかったかもしれません。

高崎だるまのブランド化

高崎だるまが全国に波及し、日本有数の産地になるにつれ、県・市を代表する特産品として郷土の生んだ伝統工芸品となりました。その匠の高度な技術に対して平成十一年度より「群馬県ふるさと伝統工芸士」が制定され、現在五人の方が認定を受けています。

また、群馬県指定のふるさと伝統工芸品としては平成五年に認定を受け、県内では第一号となる地域団体商標登録を第5003697号で「高崎だるま」として全国で唯一



だるまの地域ブランド登録を行っています。

その他、観光庁の「魅力ある日本のおみやげコンテスト2013」では「インド賞」を「高崎だるま ちいさな幸福」という紅白のミニだるまセットが受賞をしています。

また、創作だるまとしても厚い層を持ち、群馬県デザインেশンキャンペーン期間中には機関車の街・高崎をPRするためのオリジナルだるまとして「機関車だるま」を作り上げ好評を得ました。各店舗の中では、群馬交響楽団を模したオーケストラだるまやデザイナーズだるま、干支だるまやゆるキャラだるまなどの現代にマッチした新しい世代のだるまが生み出されています。

世界に目を向ければ、禅を通じた結びつきが広がりをを見せており、海外ブランド力のアップに向けて品質の向上はもとより、日本の和の文化をマーケティングに結びつけられる要素を「だるま」そのものが秘めています。

現在、群馬県達磨製造協同組合では海外ブランド・品質向上・だるまの町作りの3つのプロジェクトを立ち上げ、地域を挙げた取り組みと次世代に向けた活動を始めています。



会場案内



JR高崎駅西口より徒歩10分
地下駐車場あり（城址地下駐車場・城址地下第二駐車場）

高崎シティギャラリー
群馬県高崎市高松町35-1 TEL 027-328-5050